

# 4. 3 理教授公・権進派の「正常化」への

反動的企てを粉砕せよ



14. 内集会を獲ち取り、授業再開を阻止せ  
保・沖縄斗争の怒濤の進撃と結びし、4.28 沖縄解放

全人民総反乱を斗に抜け

教育大学生解放戦線(華)

全學斗に結集する全ての斗う學友諸君！

もうヨリ多々受け取らざりえカタモミに付し、支へ一きつたりとどもに、その野望を断固押して

あればならぬ。

4. 3 理教授公は、理學部3年生における授業再開を、4日から、ロックアウト下において行なうこと決定した。しかも、斗争に参加しなりとの誓約書を提出せし、それと交換に通行証を交付し、それを拒否の學友には「特別の措置を拘る」などと云つてゐる。今回の斗争参加者に対する処分も、すぐに出てゐるとも云ひれども、

でいるとも云ひれども、

又、學内・大學付近にかける暴力は、官憲の手により排除することも決定し、學内規則も、細かく複数

此、立看板・集会の制限規制など自治活動に対する規制も行はれようとしている。

理學部教授公・移転推進派は、その反動性を更に露骨に我々の前に示して来た。彼らは、权力と全く

一体化する中で、移動隊による武力を背景としたながら、意図的に我々の斗争を圧殺し、學内の「正常化」

をはしらなり

そして、それは、二・二七、ニハ移動隊入以来、官島代行の权限に依拠した斗争压殺、移転推進の強权、  
遂行の必然的帰着であるし、今や、彼らが权力と一体化し、移動隊の武力に依拠する限り、彼らの斗  
争は殺、移転推進の野望が実現できず、學内における支配を維持できないことを自己暴露してゐるものだ。  
故、我々は、今後の斗争の中で、この状況を一層おし進め、彼らを最後の最後まで追いつめていかむ  
此ばぢらなり

しかし、現在の彼らの強权的暴力的策動が、追いつめられに彼らの唯一とするべき手段であるとともに、  
其頃の中政密分离答申(「學生の地位」)、國立大學長答申における文相発言(4.7.)に示されてゐるよう  
に、权力が、現在の全學斗争の昂揚の中で、70年を目前に控えた今、この状況をのり切る為に、計画的全  
面的に、暴力的斗争压殺を策していふことは、さり見て、权力・移転推進派の支配の暴力に対し、我々  
の支配秩序破壊の暴力をも準備していかなければならぬ。

我々の斗争の展望が、权力の公然たる登場以来、すでに权力との斗争の中ではしか語り得なくなつてゐる  
時、東大一月決戦が提起した大學の帝國主義的再編粉碎・帝國主義大學解体・二重权力の創出の斗争を、  
堅固として、教育大臣学斗のものとしていかなければならぬ。筑波斗争は、個別教育大における帝國主  
義的再編粉碎の斗争として斗ひて來たけれども、東大一月決戦を至、权力との斗争へと發展してゐる今、  
この斗争は、より根柢的に、权力に肉薄する斗争として、帝國主義大學としての大學へ帝國主義教育秩序  
が貫徹し、ブルジョア私教育起成の敗壞を貫成し、高級専門者を養成してゐる。又、同時に、理教授に  
典型的に見られるように、資本主義的生产力发展を担う科學技術開発を行ひ、文反動教授に典型的な  
ブルジョア支配維持のイデオロギヤザクリを行なつてゐる。それで、筑波移転とは、その自ら的徹底的な  
進行をもたらすものであるしを解体する斗争として、そして、その過程を、支配の权力に対し、プロレタ  
リア的學生の二重权力を対置する斗争として斗つていかねばならぬ。そのことが唯一の勝利への展望で  
あるし、全學斗争、その斗争を担ひえる組織へと再編強化していくことが焦眉の課題である。

以上へ向けて斗争の一歩き、4日、理學部3年生に対する授業再開オリエンテーションを粉砕する斗争  
の中で立ち取つていかなければならぬ。

理學部學友の誓約書を拒否して、再開に立ち取らなければならない。この過程で、學友に、大學当局、  
权力の一體化した斗争圧殺をはねのけ、反面の斗争に決起するのみ、屈服するのみを繰りつづけ、理學  
部における流动化をもたらし、全學斗に結集させていかなければならぬ。そして、それを突破口に、斗

曰、断固として、内集団を今ち取り、星學斗の総力を上げて斗りとして、オリエンティーシヨンを粉砕し、援業再開、「正常化」区あくまで粉砕し、然後務輸阻止斗争を永続的な斗りとしなければならない。4月内集団に、万難を排し決起せよ、斗争聖教根因決定を粉砕せよ！

我々は、渤海斗争の永続化・徹底化をめらとする中で、學田を斗う教東へと進みし、文保粉碎、沖縄解放の斗争結束へとし、4・28沖縄解放全人民糾反乱を、人民戦争一解放、战線路線をも、て在側的にじくり出しでり本むければならぬ。帝國主義國家権力、帝國主義紗支配秩序との対決を展望した、帝國主義教育支配秩序・帝國主義大學解体の斗りへと發展していける今、帝國主義紗支配秩序の中心安保体制(日米反革命同盟粉碎)の斗りの結局しなければならぬ。又、紗支配秩序との斗りの前進歩、权力の圧倒的物理力の前に一定に停滞せざるを得なくなつてゐる大學斗争の前途を立ち止らすのだ。

4・28は、すでにあらゆる革命派によつて準備されつゝある。4・28を、10・21新宿反乱で示された人民戦争の一つの展開をもつて斗り抜き、6月階級斗争・安値紗織斗争の巨大な波濤の進撃をつくり出していく斗りとしなければならぬ。

大學斗争の一大の強大強化、4・28沖縄解放全人民糾反乱の標榜といふ、当面の日本内燃斗争の二大柱々を、断固として組むべしとし、我々學生に傳せられてこの、その要請に応え、4月大運動をつくり出せ！